

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 21 年度第 6 回被服学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

- I. 日時:平成 22 年 2 月 22 日(月) 午後 3 時から午後 5 時  
II. 会場:私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 出席者:高部啓子、角田由美子、江川澄子、山口恵子、田中早苗、阿部栄子、伊佐治せつ子  
井端事務局長、森下、恩田

1. 最終的な被服学の情報教育(案)の作成について。  
これまでにまとめた被服学の情報教育(案)の「到達目標」、「到達度」に加えて「教育内容・教育方法」および、「到達度確認の測定手段」について検討し、最終的な被服学の情報教育(案)を完成する。  
目的は、昨年度に検討した学士力を実現するために必要な情報活用能力を身につけさせる教育方法を考える。なお、特定の科目を対象にした情報活用能力ではなく、汎用的なものから被服学分野でさらに必要となるものを含むものにする。  
複数の他教科の情報教育案を参考とした。
2. 「到達目標 1」の「到達度」5 項目についてそれぞれ検討し、「教育内容・教育方法」および、「到達度確認の測定手段」を下記のように作成した。  
[教育内容・教育方法]  
・到達度①②に対して、被服に関する信頼できる情報源を理解させ、著作権に配慮した情報収集・分析の演習をさせる。  
・到達度③④に対して、汎用ソフトを含め、3D 計測、CAD、CG、シュミレーションソフトなどを教え、実際に活用して被服のデザインや設計の実習をさせる。  
・到達度⑤に対して、画像表現や造形表現ソフトなどを活用した作品をプレゼンテーションさせる。  
[到達度確認の測定手段]  
・到達度①②に対しては、レポートなどにより知識と技術を確認する。  
・到達度③～⑤に対しては、作品の発表やプレゼンテーションなどにより確認する。
3. 「到達目標 2」の「到達度」3 項目についての「教育内容・教育方法」および、「到達度確認の測定手段」は下記のように作成した。  
[教育内容・教育方法]  
・到達度①に対して、Web サイトを活用して生産・流通の現状を理解させるために、産業の変化について考えさせる。  
・到達度②に対して、最新の産業情報や消費者ニーズを調査させ、問題発見や商品企画の提案をレポートさせる。  
・到達度③に対して、コミュニケーションツールを用いて、将来の衣生活を見据えた新しいシステムを地球規模で考え、発信の模擬演習をさせる。  
[到達度確認の測定手段]  
・到達度①②に対しては、レポートなどにより確認する。  
・到達度③に対しては、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。
4. 作成した案を再度各委員に確認してもらい、これを基に新年度に具体的内容検討に入る予定。

新年度は 5 月または 6 月に第 1 回委員会を開催予定。

以上

## 被服学の情報教育

### 到達目標1

被服の役割や構造を理解し、情報通信技術を用いて現代社会に適合した被服の設計やデザインを表現できる。

### 到達度

- ① 被服に関する適切な情報(歴史・人体・被服構造・素材・管理)の所在を知っている。
- ② データベース、アーカイブス、文献等から適切に情報収集・分析できる。
- ③ 文書作成、表計算、画像処理などの情報技術を身に付けている。
- ④ 被服特有のアプリケーションソフトの活用ができる。
- ⑤ 情報通信技術を用いて、被服に関するプレゼンテーションができる。

### 教育内容・教育方法

- ①と②は、被服に関する信頼できる情報源を理解させ、著作権に配慮した情報収集・分析の演習をさせる。
- ③と④は、汎用ソフトを含め、3D計測、CAD、CG、シミュレーションソフトなどを教え、実際に活用して被服のデザインや設計の実習をさせる。
- ⑤は、画像表現や造形表現ソフトなどを活用した作品をプレゼンテーションさせる。

### 到達度確認の測定手段

- ①と②は、レポートなどにより知識と技術を確認する。
- ③～⑤は、作品の発表やプレゼンテーションなどにより確認する。

### 到達目標2

被服の生産・流通・消費を通じた衣生活の質の向上に情報通信技術を活用できる。

### 到達度

- ① 最新の産業構造や生産・流通の仕組みを理解するために情報通信技術を活用できる。
- ② 情報通信技術を用いて、ライフスタイルに合わせた商品開発ができ、衣生活の問題点を共有し、商品の品質向上につなげることができる。
- ③ 情報通信技術をローカルかつグローバルなシェアリングシステムやリサイクルシステムに活用できる。

### 教育内容・教育方法

- ①は、Web サイトを活用して、生産・流通の現状を理解させるために、産業の変化について考えさせる。
- ②は、最新の産業情報や消費者ニーズを調査させ、問題発見や商品企画の提案をレポートさせる。
- ③は、コミュニケーションツールを用いて、将来の衣生活を見据えた新しいシステムを地球規模で考え、発信の模擬演習をさせる。

### 到達度確認の測定手段

- ①と②は、レポートなどにより確認する。
- ③は、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。